

## 「教育大転換！SDGs 時代の学びと『調べさせられ学習』からの脱却」

～持続可能な社会の創り手を育てる日本の学校改革最前線～ 教育目標・評価学会紀要第35号掲載論文より

手島利夫氏論文の漫談的な要約で～す！

下線部や黄色い部分はキーワードです

はい、皆さんこんにちは。

😊 こんにちは。

今日はですね、皆さんのあるいは皆さんの身近な子供たちの学びが、今どう変わろうとしているのか、その最前线に迫りたいと思います。元小学校長の手島氏の論文。これを手がかりに教育の世界で今起きている大きな変動、特に持続可能な社会の創り手を育てるという目標が実際の学校現場にどんな変化を迫っているのか。

😊 一緒に探っていきましょう。

今回はそうですね、まさに理想と現実のギャップみたいなところがテーマになりそうですね。

😊 ああ、ギャップですか。

ええ、国連の SDGs なんかも、ま、背景にあって教育の目指す方向自体は大きく変わった。

😊 はい。

でもそれがじゃあ学校の教室で先生や子供たちの学びにこうちゃんと反映されてるのかっていう

😊 うん。かなりこう核心的な問いに踏み込むことになりそうですね。

そうなんです。今回のミッションはですね、この変化が具体的に何を意味していくで、なぜ主体的、対話的で深い学びなんて言葉 が今重要視されるのか。

😊 ええ。

そしてそれが私たちの未来にどう関わってくるのかを、ま、しっかり掘ることかなと。

😊 はい。

早速その変化の原流から見ていきましょうか。

😊 お願いします。

まず抑えておきたい大きな流れとして世界の教育目標が変わったという点ですね。

😊 そうですね。

昔はこう読みかき算盤みたいな基礎学力をみんなにっていうのが中心でしたよね。開発途上国への支援として進められたEFA・万人のための教育。でも今は持続可能な社会の創り手を育てようとしていますね。

😊 はい。

持続可能な開発のための教育 ESD にこう重心が移ってきた。これはあの SDGs の目標 4 質の高い教育をみんなにとも直結してるんですよね。

😊 ええ。

教育はもう個人の知識獲得のためだけじゃなくて社会全体をより良くしていくためのエンジンなんだという、そういう認識ですね。

😊 はあ、なるほど。エンジン

ですから日本の学習指導要領にわざわざ前文がつけられてこの持続可能な社会の作り手の育成が明記されたのはまさにこの国際的な大きなうねりを受けた結果なんです。

😊 なるほど。世界的な何かこう危機感みたいなものが日本の教育の根っこにも影響を与えてる。そういうわけですね。知らんかったわ～。

そういうことです。

😊 じゃあその新しい学習指導要領は具体的に学校に何を求めてるんでしょう？

手島氏の論文を読むと大きく 3 つの ポイントが浮かび上がります。

😊 はい。

1つ目が学校教育目標の明確化ですね。

😊 ええ、

要するに各学校がうちの学校ではこういう子供を育てますっていう目標を今の時代に合わせてアップデートしなさいと。

うん。うん。

そしてそれを保護者とか地域の人たちにもちゃんと伝えなさい、共有しなさいということですね。

なるほどね。

特に総合的な学習の時間っていうあの教科の枠を超えて探究する時間の目標。

はい。はい。総合ですね。

ええ。つまり自分が課題を見つけて解決したり、自分の生き方を考えたりする力、これを育むこととしっかり連携させることが大事だと。

うん。でもこれってどういうことなんでしょう?学校の目標って昔からま、ありますよね。

ええ、あります。あります。でもね例えば「明るく元気な子」みたいな目標だけだと

ああ。

この変化の激しい時代に対応できる創り手を育てるには少し物足りないかもしれないということなんです。

なるほど。

もっと具体的にその社会の課題解決にどうつがるのかとか、あと学校の特色でもある総合的な学習で育む資質・能力とどうリンクしているのか。

ふむふむ。

そこまで踏み込んで目標を設定してそれを学校の中だけじゃなくて私たちの学校はこういう未来を見据えてこんな力を育てることに力を入れてますよ～と地域全体で共有していただく必要があるということですね。

なるほど。教育目標をよりシャープにかつオーブンにして、と。

ええ。で 2つ目のポイントが教科等横断的な教育課程の編成

はい。出ましたね教科等横断。

これは算数・理科・社会みたいにこうバラバラに学ぶだけじゃなくて

うん。

それぞれの教科で身につけた知識とかスキルを総動員して現実の複雑な問題に取り組む力を育てましょうということですね。

まさにそうです。

料理に例えると分かりやすいかもしれませんね。

ほう。料理ですか?

ええ、各教科の勉強が個々の食材の知識とか包丁の使い方を学ぶこと だとすると

はい。はい。

教科等横断っていうのはそれらを組み合わせて実際に美味しい料理つまり問題解決というひと皿を作り上げるみたいな。

ああ、なるほど。分かりやすい。

手島氏の論文ではその中にやっぱり総合的な学習（探究）の時間を年間を通して計画的に教科・領域同士をつないでいくと

うん。

そのためのツールとして ESD カレンダーも紹介されていますね。論文で紹介されていたあの江東区の八名川（やながわ）小学校でしたっけ?

はい。そこの実践も面白かったですね。

国語で SDGs を学んだ視点から総合学習のキャリア教育につなげて、社会科とか図工の学びも生かしてさらに地域の人からも話を聞いて最終的に自分の将来プランを発表するっていう

はい。まさに教科の壁を超えてますよね。

そうなんです。

でも正直、先生方はこれ大変じゃないですか?なんか自分の教科だけでも手一杯なのに。

いやあ、おっしゃる通りですよ。現場の先生方の負担は、それは大きいと思います。

😊 ですよね。

だから こそ個人の頑張りだけに頼るんじゃなくて、学校全体でカリキュラムをどうデザインしていくかっていう視点。

😊 ああ、カリキュラム・マネージメント。

そうです。それが不可欠になってくるんですね。で、なぜわざわざこんな大変なことするかといえば結局現実社会の問題って国語の問題、数学の問題みたいに綺麗に分かれてないじゃないですか。

😊 まあ確かにそうですね。

いろんな知識とかスキルを統合して使わないとなかなか立ち打たできない。その力を学校で育てていこうというわけです。

😊 なるほど。

そして 3つ目のポイント。これが1番よく聞く言葉かもしれません。主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善。

😊 ええ、アクティブラーニングとも言われますね。

あ、そうです。そうです。これは単に知識を覚えるだけじゃなくて、その知識を使って自分で考えて人と話し合ってもっと深く理解したり、あるいは新しいアイデアを生み出して問題を解決したりする、学び方自体を重視する学びに変えていこうと。

😊 そうですね。

ここでの非常に重要なのが主体的っていう言葉の本当の意味合いですね。

😊 主体的ですか？

ええ、そしてなぜ対話的で深い学びが必要なのか。これはもうこれからの予測困難な社会ですね、答えのない問い合わせで向かい合って他者と協力しながら新しい価値を作り出していく。そういう力が不可欠だからなんです。

😊 うん。

単なる物知りじゃなくて学んだことを使って行動し、変化を起こせる人を育てるそのための学び方なんだと。

😊 なるほど。

この3つのポイント目標の明確化、教科等横断、そして主体的、対話的で深い学び これら全部があの最初に話した持続可能な社会の創り手の育成っていう大きなゴールにつがっているんだと。ま、そういう風に理解すると分かりやすいかもしれません。

😊 理屈は、え、よくわかりました。でもやっぱり理想と現実は違うと。

うーん。そこが難しいところで、手島氏の論文を読むと現場ではかなりご苦労されている様子が伝わってきますよね。まずさっきの学校教育目標の変更からしてなかなか進まないと。

😊 ええ 校長先生がその伝統とか地域への遠慮とかで思い切って変えられないケースがあるそうですね。

え、ま、長年親しまれてきたスローガンを変えることへのなんというか抵抗感とか、また、新しい時代の求める教育の進め方に確固とした自信が持てないとか、実際に自分が教育目標を変えるというのは勇気のいることかもしれません。

😊 あるいは関係者への説明の大変さとかそういう現実的な壁は、ま、確かにあるでしょうね。

それから 2つ目の教科等横断についても先生方自身がそういう学びを受けた経験がほとんどないと。

😊 そうなんですか～。

それに、小学校でも最近は教科担任制が進むと、その人に任せきりになってしまいがちで、他の教科とのつながりを考えるのがますます難しくなっているという指摘もありました。これはその構造的な課題も絡んでますよね。先生個人の力量だけの問題じゃなくて学校全体として教科の連携をどうデザインしてどうサポートしていくかっていうその仕組み作りに、取り組もうってことですよ。

😊 なるほど。仕組みですか。学びの構造化が進むと教育が面白くなりそうですね。

そして次が 1番うん、深い問題かもしれないんですが

😊 はい。

3つ目の主体的な学びが現場で誤解されている、あるいはこう、形骸化しているんじゃないかという指摘です。

（） ああ、出てましたね、その問題。

手島氏によると多くの先生自身に主体的に学んだっていう経験があまりなくて、どうしていいかわからないと。

（） うん。先生だけじゃありませんが・・・。

その結果、見た目は活動的な「調べ学習」がこれが主体的な学びだみたいな感じでこう広まってしまったと。

（） ええ、ここからが非常に考えさせられる点なんですが。

そうなんです。手島氏が特に警鐘を鳴らしているのはその調べ学習がですね、実は調べさせられ学習になってしまっている危険性なんですよ。

（） 調べさせられ？

ええ、彼が紹介している実際にそういう授業を受けた学生さんのかなり生々しい声があるんですが

（） はい。

例えば「先生のやりたいことをやらせられている感じだった。」とか。

（） うわお！

「別にエコについて考えが深まったわけではなかった。」とか。

（） ああ、それはちょっと・・・。

つまり子供が自らなぜこれ知りたいっていうそういう問い合わせを持つんじゃなくて先生が決めたテーマについて言われた手順で情報を集めて発表するっていう

（） はい。

いわば作業になってしまっているケースが少くないんじゃないかと。

（） う～ん。作業ですか？

手島氏がご自身の授業で学生に尋ねたところ、その主体的な学びの経験者がほとんどいなかつたっていう。

（） ああ、埼玉大学での調査（2025年7月14日）ですね。

ええ、あの結果なんと79名中なんと0人には正直言葉を失いました。

（） えっと0人ですか？それはうーん。かなり衝撃的ですね。

ええ、ま、私もこの数字は少し驚きましたけども、もちろんこれはあくまで1つの事例ですけどね。

（） はい。

ただ教育方針として国が掲げている理想と実際の教室での実践との間に依然として大きな溝があることを示唆しているとは言えますよね。

（） うーん。

じゃあこれが何を意味するかと言うと結局いくら形だけアクティブに見える授業をやっていても子供たちの思考力とか探究心といった本当に育てたい力には繋がらずに

（） はい。

あの持続可能な社会の創り手という目標からもむしろ遠ざかってしまうんじゃないかということです。

（） うーん。それは深刻ですね。じゃあどうすればいいんでしょう？

この状況を変えるために手島氏は具体的な校内研修の方法を提案していますね。

（） ええ、提案されてますね。

まずそもそも「確かな学力」って何だっけという問い合わせから始めると

（） ほう、原点に戻る感じですね。

ええ。多くの学校が目標に掲げてる「進んで学ぶ子」っていう言葉。先生に言われたことを進んで学ぶだけで、これから時代に十分なのかなと

（） うん。うん。

例え自分で問題を見つける力とか深く考える力、表現する力、そういう要素はどうなんだろうと先生たちに問いかける。

（） はい。

そして文部科学省が示している確かな学力の要素リストありますよね。問題発見、解決能力とか思考力、判断力、

表現力、学ぶ意欲、知識・技能とか

ええ、ありますね。

あれを見ながらそれらが実際の授業の中でどんな順番でどんな活動を通して育っていくのかを 具体的に考えさせるというアプローチです。

これは面白いアプローチでしたね。

何か新しい手法を、これやってくださいって教える前にまず何のために教えるのか、どんな力を育てたいのかっていうその教育の根本にある価値観とか目標自体を先生たち自身がこう深く考え直す機会を作るようなやり方ですね。

そういうことですね。

そこが共有されないと結局なんか小手先のテクニック改善に終わっちゃう可能性ありますからね。

確かに。

で、次に その確かな学力の要素は具体的にはどんな学習過程で育っていくのか、それを先生たち自身に描き出さると

学習プロセスですか？

ええ、手島氏が示している学習過程は 1 問題に気づく から始まって、2 学び調べる、3 まとめ吟味する、4 発信する、5 実践するというこの一連の流れです。

ああ、なるほど。

このプロセス全体こそが主体的、対話的で深い学びなんだということに、まず気づかせることが重要なんだと。なるほど。ここでハットさせられるのは さっき問題になった調べさせられ学習は、主体的・対話的で深い学び全体の中のどこに偏ってたかですよね。明らかに 2 番 3 番 4 番、学び調べる・まとめる・発表するという部分だけがこう切り取られていた。しかもその前の最も重要な 1 問題に気づくっていうステップが実は生徒自身じゃなくて先生主導で行われていた。

そうか。

だからどうしてもやらされ感 が生まれちゃってたということですね。

まさに。

だから調べさせられ学習を抜け出すためには教師が「はい、これについて調べてきなさい」と課題を与えるんじやなくて

ええ、

生徒自身が、これってどうなってるの?なんとかしなきゃみたいに問題の重要性に自分で気づいて「これは自分たちの問題だ。」と自己ごととして捉えられるようなそういう学習の導入が必要なんだと手島氏は強調しています。

「自分ごととして捉える」ですか?

そのため教師に求められる重要な役割は、学ぶ心に火をつけることなんだと。

火をつける。

ええ、主体的な学びっていうのは生徒自身の中に、知りたい、解決したいっていう内発的な同機、つまり問い合わせが生まれることから始まるんだと。

はい。

だから学習プロセスのまさに最初の 「1 問題に気づく段階」 に教師は全力を注ぐべきだと。

火をつけるかっこいい言葉ですけど、言うは安しい行うは難しいですよね。きっと。

ええ、そうだと思います。でも手島氏は具体的な火のつけ方として 3 つのステップを紹介してくれています。

ほう。 3 ステップ。

例えば社会科で「私たちの暮らしと水」について学ぶ单元だったらステップ 1 基本的な気づき。災害時に給水車に長蛇の列ができている写真とか、あと重いポリタンクを運ぶ体験とかを通して、うわっ水って超重いじゃん。1 では、めっちゃ大変とまず写真や体験から水の重要性を実感させる。

なるほど。体験から

ステップ 2 疑問の発生。普段使っている水道水と浄水場の取水塔付近で汲んできた川の水を、目の前に並べ、見た目とか臭いとかで比較させたりして、え、あの川の水をこんな綺麗な水道水にして飲んでいるの?どうやって?という強い驚きとか疑問を引き出す。

😊 ああ、そこで「なぜ・どのように」が生まれるわけですね。

そしてステップ 3 学習計画。子供たちから出てきた疑問を分類・整理して、じゃあこの疑問を解決するためにどこからどうやって調べようか、どんなふうにまとめようかって自分たちで学習計画を立てさせてこうワクワク感を高めていく。

😊 なるほど。

これ 教師は答えを教える人じゃなくて、本当に匠みな問い合わせとか体験を通して生徒自身の知りたいっていう気持ちにエンジンをかける仕掛け人になるということですね。まさに仕掛け人。

😊 いや、これはもう従来の知識伝達者としての教師像とは全く違う役割が求められますね。先生自身のマインドセットが不可欠だ。

そうなんです。手島氏は先行研究を元にした単元全体の計画表、ま、単元展開表っていうのも紹介はしてるんですが、大事なのは計画の枠を埋めることではなく、その計画によっていかに生徒の目が輝いて学びが活性化されるか、教師がいかに生徒の心に火をつけられるか。そこが本質なんだと繰り返し強調してるんです。

ここでの改めて興味深いのは教師の役割が「教壇から知識を授ける人」から「生徒の横に立って学びの度に時に背中を押したり、時に一緒に考えたりするファシリテーターあるいはモチベーションの点火者」へと大きくシフトしてる点ですよね。

😊 ええ、

これはやっぱり教師自身が まずこの主体的な学びの価値を深く理解して、できれば自分自身もそういう学びを体験しておく必要性が増しますよね。

😊 そうですね。

火をつける技術、つまり生徒の知的好奇心を刺激して本質的な問題を生み出すための具体的な指導スキル。ここに焦点を当てた質の高い教員研修がこれからますますね。

😊 本当にそうですね。

そして学び方がこれだけ変わるとなると当然何を評価するか、どのように評価するかも変えなければなりませんよね。

😊 はい。評価の問題

手島氏は この評価観の転換も強く訴えています。これまでクラス全員が同じゴールを目指してそこにどれだけ早く正確に到達できたかを図る到達目標型評価が一般的でした。ま、テストの点数とかが典型的ですね。

😊 ええ、

でもこれには問題があったと。

😊 はい。

到達目標型評価は、ま、分かりやすくて点数化しやすいっていうメリットはあるんですけど、一方で

😊 はい。

すぐにゴールできちゃう子にとってはそれ以上の学びへの意欲がちょっと湧きにくかったり

😊 ああ、

逆になかなかゴールに 到達できない子にとっては劣等感をつけちゃったりする。そういう危険性がありましたよね。

😊 うん。なるほど。

つまりどの子にとっても学びの充実感とか次への意欲にちょっと繋がりにくい側面があったんですね。

そこで提案されているのが方向目標型への転換ですね。

😊 ええ、

これは全員が全く同じ道からゴールの山頂を目指すんじゃなくて、各自が進みたい道から山頂をめざしてもいい。

😊 うん。

そこに向かうプロセスとかそこでの 1 人 1 人の成長を 評価しようという考え方ですよね。

😊 ちょっと抽象的ですけど、どういうことでしょう？

そうですね。例えるなら工場のベルトコンベアでみんな同じ企画の製品を作るのを目指すのが到達目標型だとすると

😊 はい。

方向目標型は、園芸家が植物の特性に合わせてそれぞれの成長を見守って手入れをするようなそんなイメージでしょうかね。

😊 ああ、そうですか。なるほど。

教師は決められた正解を教えるんじゃなくて生徒 1 人 1 人が目標に向かって自分なりのやり方で探究したり表現したりする。 その多様なプロセスをまず認める。

😊 はい。

そしてその中で見られる思考力が伸びたなどと他者と協力する態度が変わってきたなどといった成長そのものやその契機を丁寧に見取って評価して次へのアドバイスをする。 そういうコーディネーター的な役割になるわけです。

😊 なるほど。

評価の主役が点数っていう結果から、学びのプロセスとか成長そのものに移ると

😊 ええ。

そうなると生徒自身が自分の成長を振り返る自己評価とか

😊 はい、大事ですね。

あるいはクラスメート同士で学び合う中で、あ、まるまるさんのこの考え方すごいなみたいに認め合う相互評価。

😊 ええ、あとは地域の人とか保護者からの温かいフィードバックなんかも重要な評価の一部になってきそうですね。

まさにその通りです。評価が生徒を選別したりランク付けするためのツールじゃなくて生徒自身のもっと知りたい次はこうしてみようって意欲を引き出し 学びをさらに豊かにするためのなんていか羅針盤のような役割を果たすようになる。

😊 羅針盤ですか?いいですね。

ええ、これを大きな視点で見れば多様性が尊重されて 1 人 1 人が自立的に学び続ける持続可能な社会。これを担う人財を育てるという教育目標により合致した評価のあり方だと言えるでしょうね。しかしこれだけ重要な教育改革がまさに本格的に始まろうというタイミングでのコロナ禍に見舞われてしまったわけですよね。

😊 うん。 そうでしたね。

手島氏はこの影響で多くの学校とか教育委員会で新しい学習指導領のその根本的な趣旨つまり今日話してきたような改革のポイントが十分に理解されたり浸透したりしないままになってるんじゃないかなと。

😊 はい。

強い懸念を示しています。そこで自分たちの県や市の、あるいは学校の取り組みがちゃんと新しい教育の方向性に沿っているかを確認するためのチェックリストまで提案してるんですね。

😊 ええ、ありましたね。

手島氏が最も恐れていたのが、教育委員会や学校現場がぼーっとしていて教育改革の原則、つまり①目標の明確化、②教科等横断、そして③主体的学びの実現、に取り組まないまま日本の教育がなんというかガラパゴス化してしまうというリスクです。

😊 ガラパゴス化。

ええ、世界の教育がどんどん進化していく中で日本の子供たちだけが旧来型の知識詰め込み教育のままで、未来社会で本当に必要とする力を身につけられないままになってしまうんじゃないかと。

😊 うん。それは授業で AI を使えるかといった程度の問題でなく、学ぶ心・困難な課題にも立ち向かう姿勢をどう育てるかということなんですね。

ここで私たち 1 人 1 人にも問い合わせが突きつけられるわけですよ。学校あるいは家庭や地域社会はどうすればこの

重要な変化を単なるお題目に終わらせずに確実に根付かせることができるものでしょうか?今回の分析では ESD とか SDGs といった世界の教育の流れを受けて日本の教育が単に知識を伝えることから持続可能な社会の創造者を育てることへと大きく舵を切ったこと。

😊 はい。

そしてそれが学習指導要領の示す具体的な改革要求につがってことを見てきました。同時に先生たちの経験不足とか調べ学習が形骸化しやすいっていう現場の、ま、リアルな課題。

😊 ええ、

そしてそれを乗り越えるためには教師の役割を知識伝達者から学びの伴走者へと変えること、そして評価のあり方にも到達度から成長へと転換していく必要があるということも明らかになりましたね。この辺りを抜きに働き方改革を話しても、そんな先生はいるないとなりかねません。

そして、本質的な変化は、何をどれだけ覚えたかという知識の量だけでなくどのように学んだかという学びの質やプロセス、

😊 ええ、

そして知識技能だけでなく思考力、判断力、表現力あるいは他者と協力する力といった、いわゆるキーコンピテンシー、能力ですね。これらを一層大切にしていくことになりそうです。

😊 まさに知識はもちろん土台として重要なんですけど、その知識を使って何ができるようになるのか、社会とどう関わっていくのか、そこが問われる時代になったということですね。

では最後にこれを聞いているあなたにちょっと考えてみて欲しい問い合わせかけたいと思います。

😊 はい。

このように生徒が主体となって問い合わせ立てて探究して解決策を見出していく そういう学びが重視されるようになった。今私たちが長年慣れ親しんできた学力の物差し、例えば全国一斉に行われるような標準化された学力テストは、この教育改革の目指す質の高い教育の成果を測る上で、これからどのように変えていったらいいのでしょうか。

😊 そうですね。変えていかないなりませんね。

そして「変化の激しいこれからの中でも持続可能な未来を生きていく上で、あなた自身にとってあるいは次の世代にとって最も価値のあるスキルや能力とは一体何だと考えますか?」ということを投げかけながら、今日のお話をお聞きにいたしましょう。皆さん、お聞きいただき、ありがとうございました。

😊 う~む! 「何のために…、どう生きるのか…、そのために必要な学びは…? ?」

「教育大転換! SDGs 時代の学びと『調べさせられ学習』からの脱却」興味・ご関心のある方は本論をご覧ください。

※ 本論を Google Notebook LM っていう AI に読み込ませて、紹介用の動画を作ってもらおうとしたら、AI が頭を抱え込んでしまって、普通の学習指導案についてなら 2~30 分で作れる見事な動画をいつまでたってもグルグル回り続けるマークが回り続けるばかりで作れない。

24 時間を過ぎたころ、動画は作れませんでしたって…。

論文って要点の要点を組み立てて構造的に組み立てられているから、部分を取り上げてこれは重要な指摘ですなどと言えないんでしょうかね。